

【パネルディスカッション】 16:30 – 17:30

モデレーター：江崎 浩（JNSA会長）

国産サイバーセキュリティの競争力を高める ～市場づくり・技術力・産官連携で描く次の一手～

パネリスト：

- 武尾 伸隆 氏（経済産業省 商務情報政策局 サイバーセキュリティ課 課長）
- 平原 郁馬 氏（株式会社マクニカ グローバル戦略室 室長補佐）
- 栗原 啓 氏（国産セキュリティ産業振興WG リーダ／株式会社日立ソリューションズ
セキュリティソリューション事業部 GM）
- 中本 琢也 氏（国産セキュリティ産業振興WG サブリーダ／エムオーテックス株式会社
取締役 兼 CISO）

本日のパネルディスカッションのゴール

「国産サイバーセキュリティの競争力を高める」をテーマに、

- 経済産業省
- リセラー
- ベンダー

それぞれの立場から、国産のサイバーセキュリティ産業を強くするための課題と解決策を議論する。

◆ 「国産セキュリティが国内で選ばれるために必要な要件」を多面的に議論し、

さらに

◆ 「将来的な海外展開を見据えた成長の可能性」についても議論する。

議論のキーワード

- ・ 国産セキュリティ産業とサプライチェーンとの関係

- ➔ 完全な国産 は、事実上 存在しない/できない。

- ・ 4つのレベルでのサイバーセキュリティ

- 1. プロダクト(e.g., JC-STAR)

- 2. 生産場所(e.g., 工場/OT)

- 3. 企業(IT&OT)

- 4. サプライチェーン (e.g., 評価制度)

ベンチャーと資金力のありそうなベンダーのマッチング？
(OEM?)
(S i e r だけでなく)
複数の企業で分担で開発？

- ・ 厳しすぎる(?)評価/統治制度 ・ ・ ・ 実現できない制度/統治は困る

- ・ 国による ①国産製品、②日本独自仕様 の優先調達？

- ・ 補助金とのバンドリング？

- ・ すべてのインシデントに対してルールを作りたい方がいらっしゃる.....？

- ・ 政府の補助： 調達？ 開発？

- ・ 海外展開の可能性：

モダレータの意識

- ガラパゴスにはしない！
 - 補助金漬けにもしない
 - ルール漬けにもしない
 - グローバルを前提にビジネスを考えないと！
 - ➔ 国内市場は大事だけど、海外を目指すべき。
 - ➔ 例えば、アジア・ASEAN？
 - ➔ でも、日本に特有の攻撃も見受けられる。。。。
 - ➔ 海外の大規模な投資・事業化との競争。。。
 - ➔ 海外を目指すのは国の支援が必要かも？
- バラバラで動くより、まとまってきた方が先方も安心
- CESの韓国はすごかった

パネリスト紹介

武尾 伸隆 氏

経済産業省 商務情報政策局 サイバーセキュリティ課 課長

＜略歴＞

- 神奈川県出身。機械工学修士・行政学修士。
- 2002年、経済産業省入省後、通商政策、エネルギー政策、米国留学、防衛・航空機・宇宙産業政策、産業技術政策（研究開発振興・産学連携・技術スタートアップ支援等）、産業構造政策（規制改革、マクロ経済等）、人事業務などに従事。
- その後、2019年～2021年、NEDO欧州事務所長（欧州とのプロジェクト協力、欧州グリーンディール政策・デジタル政策動向の調査等）
- 2021年から2023年、情報技術利用促進課長（DX推進政策）、及び、電池産業室長（電池産業戦略策定・投資支援スキームの策定等）を経て、2023年7月より、現職。

＜資格＞ 情報処理安全確保支援士試験合格



経済産業省のサイバーセキュリティ政策の全体像

- NCOをはじめ関係省庁との連携の下、サイバーセキュリティ市場における**需要拡大と供給力強化に向けた取組**や、**国際的な制度調和と国内での調達要件化促進、サイバー情勢分析能力強化**を図っていく。

① サプライチェーン全体での対策強化

- サイバー・フィジカル・セキュリティ対策フレームワーク（CPSF）の具体化・実装
- 我が国半導体関連産業におけるセキュリティ対策水準の向上を通じた競争力確保
- 地域における中小企業支援の拡大（サイバーセキュリティお助け隊サービスの普及促進等）
- サプライチェーン対策評価制度の構築（対策水準の可視化）等 ⇒ **政府調達・補助金の要件化等を通じた実効性強化**



② セキュア・バイ・デザインの実践

- IoT製品におけるJC-STARの普及、国際制度調和の調整
 - SBOM（Software Bill of Materials）の活用促進、安全なソフトウェアの開発に向けた指針の整備
 - サイバーインフラ事業者の責務の明確化
- ⇒ **国際連携を前提とした制度構築と政府調達等要件化を通じた制度の普及**



③ 政府全体でのサイバーセキュリティ対応体制の強化

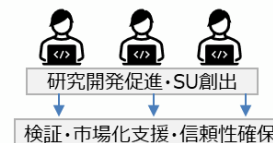
- IPAのサイバー情勢分析能力強化
- 改正保安3法を踏まえたサイバー事故調査体制の構築
- サイバー攻撃技術情報の共有促進 等



⇒ **官民のサイバー状況把握力・対処能力向上と関係省庁との連携**

④ サイバーセキュリティ供給能力の強化

- サイバーセキュリティ産業振興のための政策パッケージの推進
- 先進的サイバー防御機能・分析能力の強化
- 重要インフラ等を守る高度セキュリティ人材の育成（中核人材育成プログラム）、若手人材発掘機会（セキュリティ・キャンプ）の拡大 等



IPA 産業サイバーセキュリティセンター
Industrial Cyber Security
Center of Excellence (ICSCoE)

⇒ **セキュリティ市場の拡大に向けたエコシステムの構築**

「サイバーセキュリティ産業振興戦略」の概要

- 現状を打破するため、製品開発の出口をまず確保した上で、シーズの発掘・事業拡大を後押しする、包括的な政策対応を提示。

今後の成長に向けた課題（As-Is）

導入実績が重視される商慣習

- 実績が重視されるため、調達先が存在せず、事業として成り立たない

十分な開発投資が行われにくい事業環境

- 安定的な収益基盤が見通しづらいため、製品開発・研究開発への投資が限定的
- セキュリティ製品の販売はSIerが商流を担っており、販路拡大に課題

セキュリティ産業全体を支える基盤の不足

- 人材育成や国際市場の開拓等、産業全体を支える基盤の不足



目指すべき方向性（To-Be）と実現のための主な政策対応

スタートアップ等が実績を作りやすくなる／有望な製品・サービスが認知される

- 「スタートアップ技術提案評価方式」等の枠組みを活用し、政府機関等が有望なスタートアップ等の製品・サービスを試行的に活用（中長期的には主体・取組を拡大）
- 有望な製品・サービス・企業の情報を集約・リスト化し、政府機関等へ情報展開する／業界団体とも連携して審査・表彰を実施

有望な技術力・競争力を有する製品・サービスが創出され、発掘されやすくなる

- セキュリティ関連の技術・社会課題解決に貢献する技術・事業を発掘するための「コンテスト形式」による懸賞金事業等を実施（中長期的には安定供給確保策も検討）
- 約300億円の研究開発プロジェクトを推進し社会実装を後押し
- 我が国商流の中心であるSIerと国産製品・サービスベンダーとのマッチングの場を創出

供給力の拡大を支える高度人材が充足する／国際市場展開が当たり前になる

- 高度専門人材の育成プログラムを拡充／セキュリティ人材のキャリア魅力を向上・発信
- 海外展開を支援／標準化戦略を促進／関係国との企業・人材交流を促進



今後のロードマップ

- ① 3年以内：「企業・人材数の増加」
- ② 5年以内：「我が国企業のマーケットシェアの拡大」「重要技術の社会実装」
- ③ 10年以内：「安全保障の確保やデジタル赤字の解消への貢献を実現」【KPI：国内企業の売上高を足下から3倍超（約0.9兆円⇒3兆円超）】

平原 郁馬 氏

株式会社マクニカ グローバル戦略室 室長補佐

マクニカ 会社紹介・サイバーセキュリティ事業

強固な事業基盤と独自のインテリジェンスをもつIT商社
企業のセキュリティ対策を技術実装から運用まで包括的に支援

グローバルネットワークと、全社員の3人に1人がエンジニアという高い技術力を活かし
単なる製品販売に留まらない「技術商社」としての付加価値を提供

マクニカ 会社概要

売上高 **1兆342億円**

2024年度実績

設立 **1972年**

創業50年超

組織特徴 **社員の約3人に1人が
エンジニア**

事業の柱

- ・国内No.1「半導体事業」
- ・最先端技術提供
「サイバーセキュリティ事業」

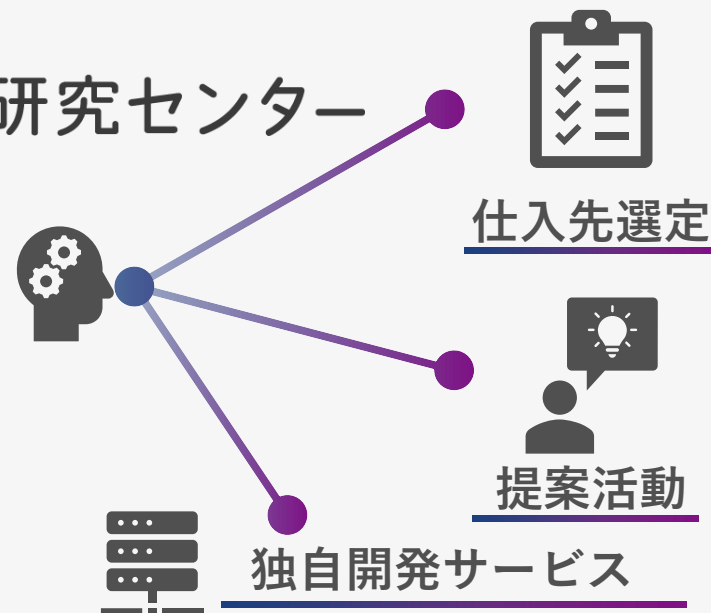
サイバーセキュリティ事業における差別化



セキュリティ研究センター

powered by macnica

独自の脅威解析機関。日本企業を標的とした攻撃（標的型攻撃・ランサムウェア等）を独自にリサーチ・解析。



グローバル展開と自社開発サービス（ASM）・自己紹介

世界最先端技術の目利きによるグローバル製品展開・自社サービス開発

シリコンバレーをはじめとする世界各国で発掘した最先端ソリューション群を、
世界26カ国をカバーするグローバルの自社グループ子会社販売網で展開

代表的商材カテゴリ



4年連続国内ASM市場シェアNo.1*
自社開発Attack Surface Management



ゼロトラスト



内部不正



クラウドセキュリティ



XDR



CPSセキュリティ
(OT/IoT)

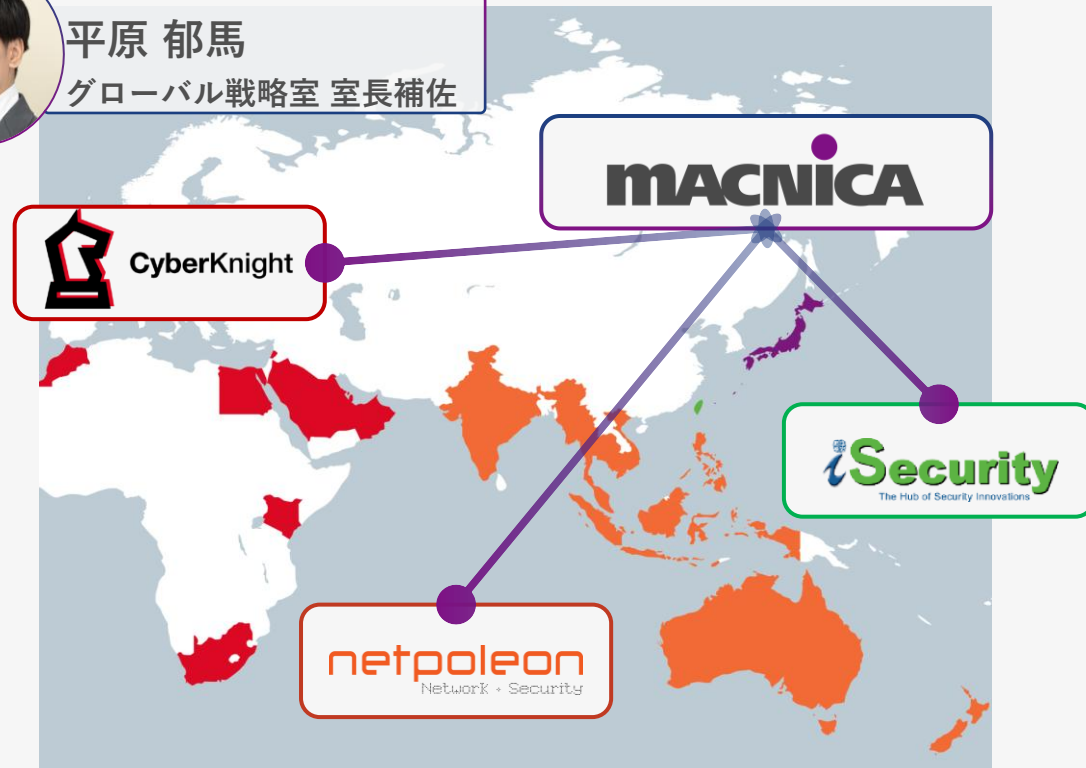


WEBセキュリティ



平原 郁馬

グローバル戦略室 室長補佐



栗原 啓 氏

国産セキュリティ産業振興WG リーダ /
株式会社日立ソリューションズ
セキュリティソリューション事業部 GM

国産サイバーセキュリティの競争力を高める

市場づくり・技術力・産官連携で描く次の一手

JNSA 25周年記念

国産セキュリティ産業振興WG

栗原 啓 (Akira Kurihara)

JNSA 国産セキュリティ産業振興WG リーダー

株式会社日立ソリューションズ セキュリティソリューション事業部 セキュリティプロダクト第1部 GM

✓ 作る・選ぶ・売る・組む：多角的な実務経験

Vendor (自社開発)

国産「秘文」の開発・販売、プロモーションに従事。日系海外拠点への展開と、ネイティブ市場への壁を経験

OEM (技術融合)

海外先端製品・技術を自社ブランドへ統合。国内ニーズに適合させ提供行うOEM事業を推進。

Distributor

一方で、海外商材の製品選定、販売戦略の立案や新規商材の取り扱い

国産自社製品の「海外ネイティブ企業への浸透」に立ちはだかる壁、海外製品を日本市場へ適合させるプロセスでの試行錯誤、その双方を実体験

JNSA 国産セキュリティ産業振興WGの活動ご紹介

課題を打破するため、WGでは、「知ってもらう」、「売りやすくする」、「みんなで育てる」の3本の柱で活動を展開しています。



知ってもらう (認知)

市場認知とブランド力の向上。国産ベンダー合同での発信力強化。



売りやすくする (販路)

販社・Sierとのマッチング。提案しやすい仕組みとインセンティブ設計。



みんなで育てる (育成)

産官学連携による技術発掘。開発投資の後押しと競争力強化。

活動タイムライン (2025-2026)

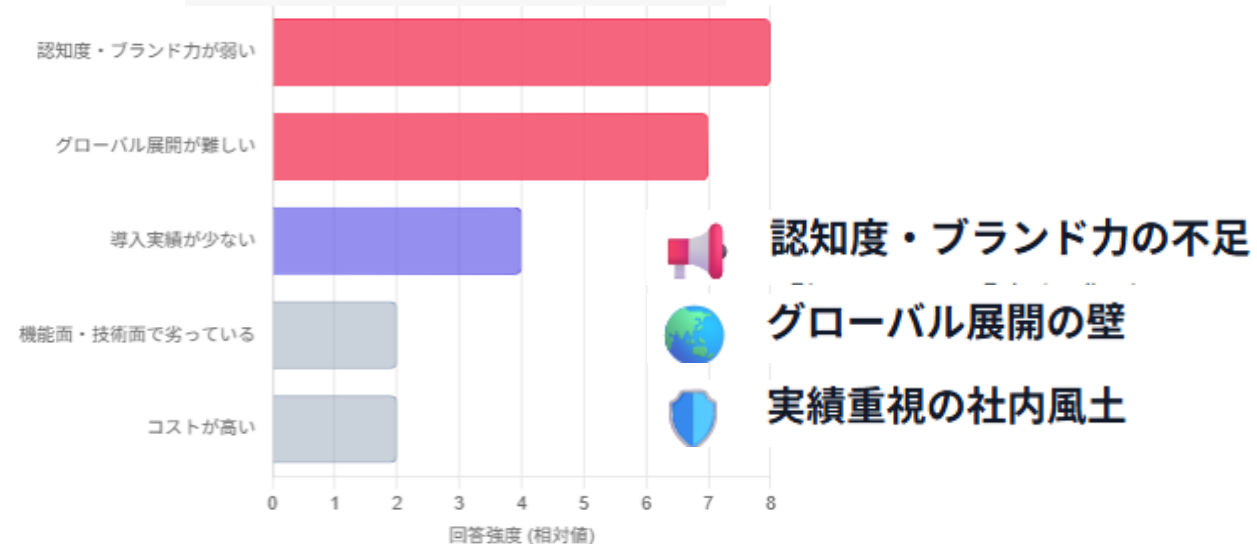
- 2025年4月**
WG発足・活動開始
23社・42名が参画。課題仮説の構築と方針策定。

- 2025年10月29日**
国産セキュリティ推進フォーラム 2025
経産省共催イベント。定員80名を上回る参加者。

経産省共催イベント 第二弾を計画中
協力・賛同いただけるSierや販売店様募集します

- 2026年4月予定**
Sier・ベンダー マッチングイベント
具体的な商流を作るための小規模ラウンドテーブルを実施。

国産製品を利用しない理由



ディスカッションしたいテーマ、キーワード

HITACHI

① 「信頼」の再定義



- 日本独自の運用（ガラパゴス的要件）からの脱却
- 高品質・高信頼をグローバルな「標準・認証」へ変換

② 市場づくり （認知とブランド）



- JNSA調査：国産製品の「認知・実績」不足という壁
- 産官連携による日本ブランドの底上げ

③ 次の一手： グローバルエコシステムへの参入



- 海外拠点の先にある「海外ネイティブ市場」への浸透
- グローバルエコシステムでの活性化と成長

中本 琢也 氏

国産セキュリティ産業振興WG サブリーダー /
エムオーテックス株式会社 取締役 兼 CISO

会社紹介 & 自己紹介

会社概要

MOTEX

会社名	エムオーテックス株式会社
代表取締役社長	徳毛 博幸
設立	1990年7月
従業員数	472名（2025年4月現在）
株主	京セラコミュニケーションシステム株式会社（2012年から資本参加）
事業内容	サイバーセキュリティに関する プロダクト開発・サービス事業

自己紹介



なかもと たくや
中本 琢也
取締役 兼 CISO



- ・新卒でMOTEXに入社、開発部門で製品の設計・開発
- ・経営企画本部で自社製品の海外展開を推進
⇒主に米国を中心に、東南アジア等
- ・プロダクトマネージャーとして自社製品の戦略の立案
- ・取締役兼 管理本部本部長として自社セキュリティ対策
やバックオフィス全般と社内のAI活用の取組を推進

エムオーテックスが提供するプロダクト・サービス

「LANSCOPE」を通して、お客様の“Secure Productivity”の実現を支援



エンドポイントセキュリティ



クラウドセキュリティ



ネットワークセキュリティ

統合エンドポイント 管理



Endpoint Manager

組織のIT資産管理・内部不正対策・外部脅威対策をオールインワンで対応

IT資産管理・MDM

内部情報漏洩対策

外部脅威対策

AI アンチウイルス



Cyber Protection

AIを活用したアンチウイルスで未知・亜種の脅威を検知・対処・復旧が可能

EPP

EDR

MDR

リモート コントロール



Remote Desktop

遠隔地のサーバーやPC、スマホへのリモート操作などヘルプデスクを効率化

リモートアクセス

ヘルプデスク効率化

Microsoft 365 セキュリティ



Security Auditor

Microsoft 365の監査ログを取得。利用状況の見える化やアラート管理が可能

監査ログ管理

アラート管理

脆弱性診断



Professional Service

セキュリティエンジニアがWeb・ネットワーク・クラウドの脆弱性を診断

Web診断

ネットワーク診断

クラウド診断

AI型ネットワーク 脅威検知

DARKTRACE

AIを活用しネットワークを監視、サイバー攻撃や内部不正の兆候を検知・遮断

NDR

ネットワーク遮断

Email監視

サプライチェーン リスクマネジメント



ドメイン情報やオンライン調査票からサプライチェーンリスクを可視化

セキュリティスコアリング

ASM

コンサルティング



ガイドライン対応
サポートアカデミー

セキュリティレベル向上を「アカデミー形式」で支援するコンサルティングパッケージ

チェックシート

オンデマンド講座

セキュリティ規程ひな形

個別相談（Web会議・メール）